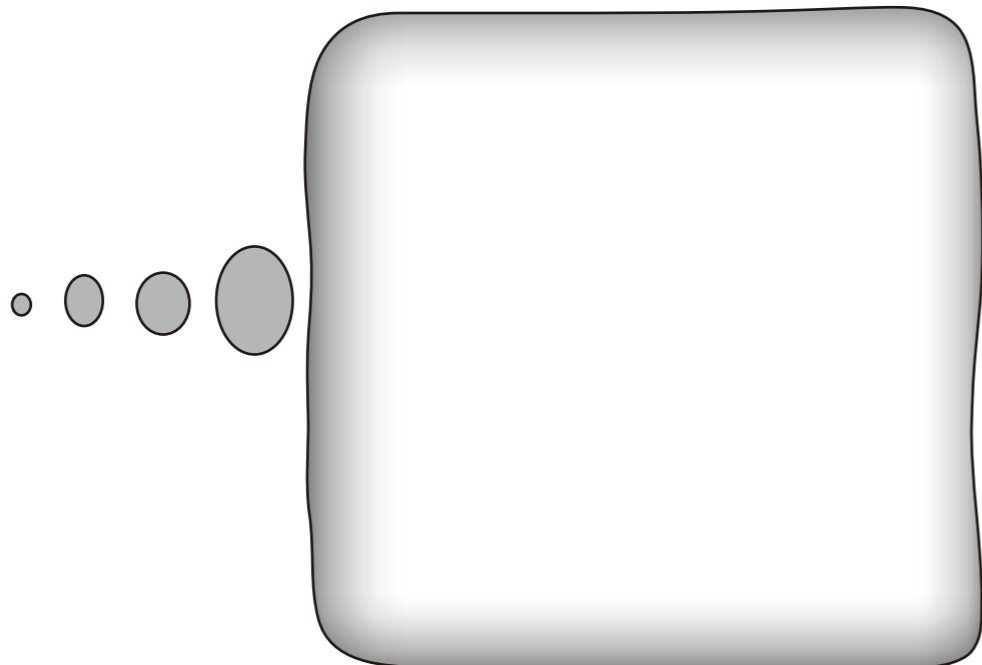


③ 柴川敏之の作品の中に、ガラケーがあった。このカメラはいったい何を写していたのだろう。想像して、絵にしてみよう。



③ 柴川敏之は、2000年後のいまの時代を作品にしている。2000年後、この世界のいろいろなものが発掘されているということは、その間にいったい何が起きたのだろうか。想像したことを文章で表してみよう。

---

---

---

---

## 6. エピローグ ～ いま、何時？

① 展覧会を通して、いろいろな時間を見てきた。

今日、ここで君が過ごした時間に名前をつけるとしたら、なんと表す？

② タイムトラベルラボで、タイムトラベルのための乗り物を作ってみよう。

(そしてもしかメラつきの携帯を持っていたら、作ったものを写真に残しておこう。2000年後に誰かが見つけてくれるかもしれない。)

▶▶▶ 博物館では7月14日から8月26日まで、「城下町和歌山を歩こう」展が開催中。ぜひ行ってみよう。



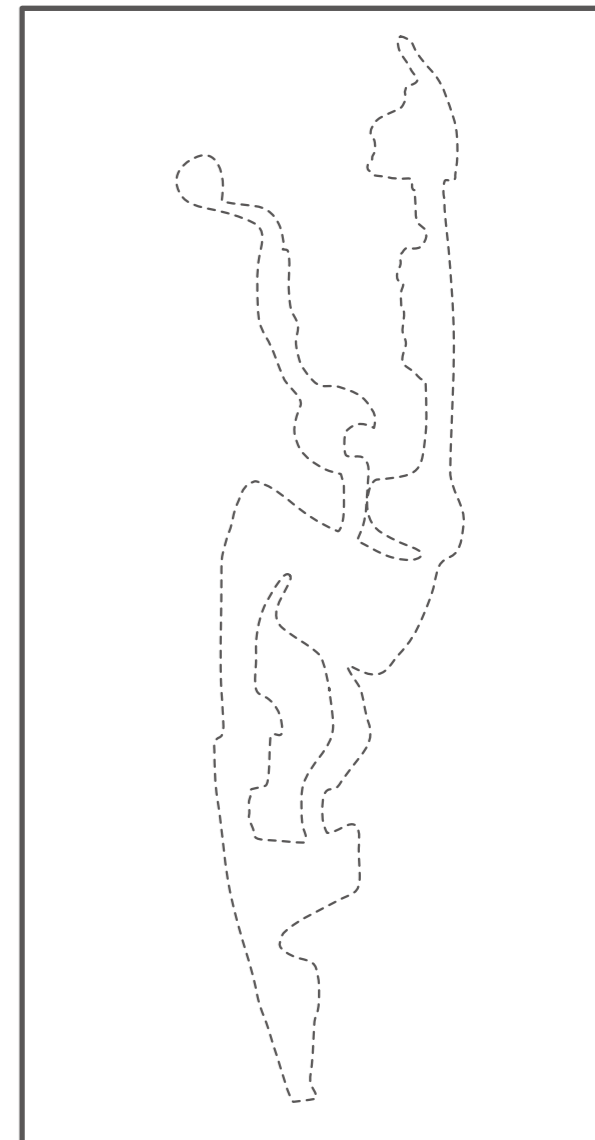
学校名

年 組 番 名前

## 0. プロローグ ～ いま、何時？

## 1. 「1章 宇宙の時間への旅」より

① 建島覚造《星の樹2》を見て、そのイメージを、音を表すことば（擬音語、擬態語（ドカーン／キラキラなど））で、右の四角の中に自由に書いてみよう。吹き出しなどを使ってもいい。



## 2. 「2章 自然の時間への旅」より

- ① ここにはロジャー・アックリングの作品がある。  
作品をよく見て、右の図版に足りないものを描き加えてみよう。
- ② どうやって、どれくらいの時間をかけて作ったのだろうか。

どうやって作ったのか

---

---

---

かかった時間

---

---

---



## 3. 「4章 人間の時間への旅」より



- おちえひゆん
- ① 呉 採鉉の《家系図 9625》を見てみよう。  
岩のようなものの上に、灯籠が立っている。そこに電球がついている。  
作者はどのようなイメージをこのかたちに表したのだろうか。想像を広げて、  
解釈してみよう。

私の解釈：

---

---

---

- ② 人間の生きる時間は限られている。けれども、私たちには二人の親がいて、それぞれにまた二人の親がいて、ずっとずっと昔から人の時間が連なって、今の私たちの時間がある。  
ここでは、会うことはできない自分の祖先を想像してみよう。  
いったいどんな人だったのだろうか。  
(あるいは前前前世を想像してもいい。)

どんな人？（文章で）

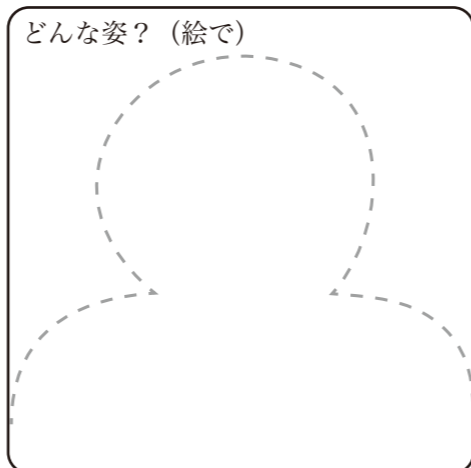
---

---

---

---

どんな姿？（絵で）



## 4. 「5章 時間そのものへの旅」より

- ① 山本桂右の《光・時間・静寂 No.7》を見てみよう。ここには何があるだろう。描かれているものを書き出そう。

描かれているもの

---

---

---



- ② これはいったい、どこの国の、いつごろの風景なんだろう。想像し、できれば理由も説明してみよう。

---

---

---

---

## 5. 「8章 のこる時間への旅」より

- りう-ふあん
- ① 李 禹煥『廃墟へ』の7枚から、気に入ったものを1枚選んで、右に模写してみよう。

- ② 自分ならこれにどんなタイトルをつけるだろう。

---

---

---

